

# 名古屋 文化情報

2016  
5・6  
May / June

No. 368  
NAGOYA  
Cultural  
Information

随想／五條美佳園（日本舞踊五條流師範） 視点／名古屋の能を支えるワキ方高安流  
この人と／木村 繁（演出家・劇作家・特定非営利活動法人 愛知人形劇センター理事長）  
いとしのサブカル／井上 揚介（オタイオーディオ代表取締役）





Contents

名古屋市民文芸祭 受賞作品…………… 2

随想 名古屋能楽堂舞台上人前結婚式  
五條美佳園(日本舞踊五條流師範)…………… 3

視点 名古屋の能を支えるワキ方高安流…………… 4

この人と…  
木村 繁(演出家・劇作家・特定非営利活動法人 愛知人形劇センター理事長) …… 6

ピックアップ 創刊60周年を迎える「あじくりげ」…………… 10

いとしのサブカル 井上 揚介(オタイオーディオ代表取締役) …… 11

おしらせ…………… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 倉知外子 (現代舞踊家)
- はせひろいち (劇作家・演出家)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽと代表)
- 米田真理 (朝日大学経営学部教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品  
子猫の書類 4

(1992年/ゼラチンシルバープリント/101×76 cm)

2匹の子猫は一晚中、写真紙の上に置かれ、朝、紙は露出、現像された。一週間その過程は繰り返され、子猫の書類となった。表紙は4晩夜のイメージである。  
瞬間と長時間の同在。



杉浦 邦恵 (すぎうら くにえ)

1942年 名古屋市生まれ  
1967年 シカゴ美術館附属美術大学卒業、BFA  
1972年 ホイットニー美術館 「ホイットニー・アニュアル1972年」  
1997年 ニューヨーク近代美術館 「New Photography 13」  
ツァイト・フォト・サロン(東京)、タカ・インシギャラリー(東京)、レスリートンコノウ・アートワークス+プロジェクト(ニューヨーク)で個展

「2015年 名古屋市民文芸祭」  
(第六回名古屋短詩型文学祭)小・中学生の部  
短歌の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市長賞◆ 名古屋市立丸の内中学校3年 加藤 総一郎

誕生日もらったカメラで撮る写真  
どの風景もいつもと違う

◆市会議長賞◆ 名古屋市立丸の内中学校1年 中山 湧斗

妹と電車にゆれて大冒険  
ホームで会えた祖父母の笑顔

◆市教育委員会賞◆ 津賀田中学校2年 村上 琴星

寝そべれば広がる宇宙丘の上  
「落ちてきそうだ」つぶやく誰か

◆市文化振興事業団賞◆ 名古屋市立丸の内中学校3年 小川 隼矢

母と俺終わらぬけんか夏休み  
ひとり気ままに歌う文鳥

◆名古屋短詩型文学連盟賞◆ 東海市立加木屋南小学校3年 百瀬 来実

かたつむりのそのそあるく雨の中  
ひかっているよきみのあしあと

◆中日賞◆ 名古屋市立日比津中学校3年 笠井 美歩

燃えさかるトーチまわして夜を舞い  
大歓声で余韻に浸る

## 随想

## 名古屋能楽堂舞台上人前結婚式



こじょう みよその  
五條美佳園(日本舞踊五條流師範)

名古屋市民芸術祭 2014 特別賞《奨励賞》を受賞。南山大学短期大学部にて「舞踊と文化」の講師を務める師匠・五條園美の助手として、長年に渡り指導に携わる。また、名古屋市内、北名古屋市等にて後進の指導にあたる。

名古屋能楽堂の舞台上で踊らせて頂いた回数を聞かれることがあったら、たぶん私たちが一番多いのではないかと密かに自負している。

それは今から15年以上前のある日のこと、師匠である五條園美先生からお話を頂いた。「名古屋能楽堂で《舞台上人前結婚式》をやることになるんだけど、そこで日本舞踊を踊って欲しいと頼まれてるの。あなたやってみない?」

能楽堂の舞台上で結婚式をするなんて当時は想像もできなかった。KKR ホテル名古屋の企画で『本物の舞台上での結婚式で、本物の日本舞踊を』という試みである。30分ほどの結婚式で、幕開きである“序の舞”と、固めの盃や指輪交換等の儀式後の“祝舞”を託された。

園美先生の振付で、序の舞は二羽のつがいの鶴が静かに現れ、二人の始まりを感じさせるような幻想的な舞。祝舞は曲調も明るくなり、鈴と扇を使った、華やかで晴れやかな舞。

普通の舞台と違い、私たちは踊り手ではあるが主演ではない。優雅で美しくあっても、目立ち過ぎてはいけない。もっと言えば、どれだけ疲れていても絶対に幸せな表情をしているのが第一条件である。お祝いの席だけに、鈴や扇を落とすことがあってはならないというプレッシャーも重なり表情がこわばる。先生からは「もっと微笑んで!」とご指摘。

また、スタッフの皆さんの努力も並々ならぬもの

だった。先導役、巫女さん、介添人、裏方としては皆さん大ベテランであっても、能楽堂の舞台上で執り行うのは初めてである。着物の着こなし、姿勢、手足の運びなど、全てをお客様にお見せするための仕草に変えていかねばならない。先生と共にそちらにも目を配る稽古の日々。音響や照明に至るまで全て一から作り上げ、まるで一つの作品を仕上げたような感覚と感動を共有させて頂いた。

一日に8組踊らせて頂いたこともあり、気がつくやうに数年間で200組以上は優に超えていた。結婚式は一度きり、お二人の大切な門出を最高の瞬間にするために、全ての式を全力で心を込めて務めさせて頂いた。

結婚式後、能楽堂を後にする際「お二人の舞が素敵だったので、このお式に決めました。」とそっと耳打ちして下さる新郎新婦様。「ありがとう。感激しました。」と涙しながら声をかけて下さるご両親。その言葉に勇気や力を頂いたのは私の方かもしれない。そして、楽しくてアットホームな素晴らしいスタッフの皆さんに支えられた。

幸いなことに、現在様々な舞台上に立たせて頂く機会に恵まれている私に、いつも謙虚で居続ける気持ち、そして想いをお客様にいかに伝えるかの基本を教えてくれたのは、この200回以上の結婚式の経験だったと心から感謝している。

## 名古屋の能を支えるワキ方高安流

能の諸役の中で、ひときわ渋い役柄をつとめることが多いワキ方(かた)。今回はワキ方高安流のベテランとして名古屋を中心に活躍している、同流十四世家元・高安勝久(たかやす かつひさ)さんと、飯富雅介(いいとみ ただすけ)さんにお話を伺い、ワキ方にまつわる話題をいくつか提供したい。

(まとめ：米田真理)(故人につきましては敬称を略しました。)

## ワキ方とは

能の登場人物は、シテ方とワキ方で分担して演じられる。シテは物語の主人公で、神様や幽霊など、“この世”に属さぬ者であることも多い。一方、ワキは生身の人間(それゆえ能面は用いない)で、シテの物語を引き出し、観客と共に見守る役だ。

ワキ方は多くの作品において、上演中ほとんどの時間を、観客から向かって右手前の柱(ワキ柱)のもとで座って過ごす。それゆえ地味な存在と思われがちだが、実は登場直後の謡(うたい)や語りによって、舞台上の時代や季節、場所を設定する重要な役割を担っている。この謡い出しがいちばん緊張すると、高安さんは語る。

また、退場も難しい。登場の際には囃子に乗って歩みを進めるが、退場ではすでに物語が終わり、謡や囃子のない無音の状態である。だが、不思議な出来事を見聞きしたという余韻、つまり「残心(ざんしん)」を心がけ、歩みや後ろ姿を大切にせねばならないと飯富さんは説く。シテ方が中心となって作る能一番の、外側を包み込むのがワキ方の芸である。



高安 勝久さん

(提供 公益社団法人能楽協会)



飯富 雅介さん

## 高安流の芸系

高安さん所持の系譜によれば、高安宗家は、安土桃山時代に活躍した高安与八郎(後に太郎左衛門)を流祖とする。江戸時代には幕府直轄の金剛座付きのワキ方として活動していたが、明治3年に十二世が早世したため、いったん絶えてしまった。

その宗家の復活に大きく関わったのが、名古屋の西村家である。西村家は江戸時代前期に尾張藩のワキ方として召し抱えられて以来、代々活躍を続けた家柄である。宗家が絶えてからも、十世西村大蔵(だいぞう)やその孫・弘敬(こうけい)

が、宗家の後見役や代理として芸系を守り続けた。

そして、昭和4年、ワキ方高安流家元を預っていた金剛右京氏の薦めにより西村弘敬の長男・滋郎(しげお)が宗家の十三世を継承して高安姓を名乗り、さらに、その次男である高安勝久さんが平成4年12月に十四世を継承した。また、弘敬の次男・西村欽也もワキ方の重鎮として活躍し、特に昭和53年に滋郎が没し、高安さんが継承するまでの間、宗家預かりを務めていた。つまり高安さんは、高安流の宗家と、名古屋のワキ方西村家と、両方の芸を受け継いだといえる。

東京芝公園の花岳院には、金剛右京氏が滋郎の家元継承を機に建立した、宗家の先祖供養の墓碑がある。高安さんはその写真を見ながら「彦太郎や彦十郎といった家元代々の名跡を継いだら、と言ってくれる人もいますが、何しろ大変なことですから」と語る。歴史ある家を継ぐ重責は並大抵のものではなく、そのことを、父のそばで感じ続けていたからだ。



高安宗家墓碑(花岳院 昭和4年金剛右京建立)

## ワキ方の秘曲に挑む

名古屋のワキ方の、もう一人のベテランである飯富雅介さんは熊本県出身で、大学進学と同時に名古屋に移り、西村弘敬に入門した。進学先を決める時点で、能楽師だった父からワキ方の修行をするよう「仕組まれた」のだと飯富さんは笑う。

西村弘敬の最後の弟子である飯富さんにとって、その芸風を後代に伝えねばとの思いは強い。主宰する「西村同門会研究能」は、全国的にも上演回数の少ない《咸陽宮(かんようきゅう)》《松山鏡》《皇帝》《関原与一》《藍染川》《春栄(し



ゆんえい》といったワキ方の大曲・秘曲を上演し、能楽ファンや評論家から注目されてきた。第8回を迎える今年の5月8日には、《蟻通(ありどおし)》と《大蛇(おろち)》が上演される。

シテ方よりもワキ方のほうが活躍するこれらの曲の多くは1日の演目に華やかさを添える趣のものが多く、江戸時代、能が幕府や藩の儀式として五番立てで演じられていたときには、必ず演じられていたものだった。だが、近代に入って1日に上演される曲数が二〜三番になるにつれ、めったに上演されなくなってしまった。こうした稀曲が断絶しないよう、型付(かたづけ: 演者の動きを記した伝書)を研究し、舞台に挑むのである。

## ワキ方の名曲の魅力

《大蛇》は、スサノオノミコが出雲国で大蛇を退治する神話にもとづく作品である。ワキはスサノオをつとめ、剣を振るう大活躍を見せる。一方、後シテの大蛇は最後に姿を現し斬られる役で、謡がまったくない。ゆえに、シテ方主催の会では上演されにくいのだ。

だが、ワキ方が中心となって大活躍する曲は動きが大きく、後味もスカッと爽やか。《紅葉狩》や《船弁慶》は比較的に上演頻度が高いが、他にも名作は多く、観客が文句なしに楽しめる能としてもっと注目されてもいい。飯富さんが「西村同門会研究能」を入場無料としているのは、この会を通してより多くの人に、能に親しんでもらいたいとの願いからだ。

名古屋市文化振興事業団が主催する名古屋能楽堂定例公演の中では、平成20年度10月公演で高安さんがワキをつとめた《張良》があった(シテ・泉義夫)。中国の『前漢書』を素材とする作品で、シテ・黄石公から兵法の伝授を受けようとするワキ・張良が、川の急流に投げ落とされた沓(くつ)を拾い、履かせよという試験に挑む。シテ方後見によって角柱付近に投げられた沓を、急流に揉まれるていで拾いに行くのだが、その動きを能らしい格調高さで演じるのは、高安さんによれば「本当に難しい」とのこと。この舞台のイヤホンガイドを担当した筆者(米田)も、緊張で大汗をかきながらの仕事だった。それと同時に、舞台終了後、お客様方の満足げな表情が、非常に印象的な会だった。

能楽の一ファンとして筆者から提言できるのであれば、公共団体の主催公演やイベント性の高い公演で、尾張藩ゆかりのワキ方が活躍する能を、もっと活用してほしいと願う。



名古屋能楽堂 平成20年度10月定例公演《張良》



第六回 西村同門会研究能《藍染川》  
平成24年7月22日

## 能楽とワキ方の未来に向けて

高安勝久さんは今年で初舞台から55年、飯富雅介さんも47年を迎える。ベテランが充実するとともに、「以前、子方として『研究能』の舞台に出ていた子が、いま成長して舞台に立っているのが頼もしい」と飯富さんは笑顔を見せる。

高安さんは、自らが宗家の後継者として厳しく指導を受けた青年時代を振り返り、「若い頃のほうが、経験したことが“身に染みる”と思う。だから、若い頃にこそ冒険して難しい曲に挑み、周囲からあれこれ言われながら成長してほしい」と語る。同時に、成長過渡期の若手を応援する雰囲気作りも必要だと力を込めた。

ワキ方にベテランと若手が揃えば、自然に上演のレパートリーが増え、能楽界全体の充実につながるだろう。ワキ方高安流の、これからの期待したい。

## 公演情報(期日順。いずれも会場は名古屋能楽堂)

西村同門会研究能 5月8日(日)

能《蟻通(ありどおし)》(喜多流)

能《大蛇(おろち)》(喜多流)ほか

名古屋能楽堂5月定例公演 5月15日(日)

能《女郎花(おみなめし)》(喜多流)ほか

名古屋能楽堂7月定例公演 7月3日(日)(5月2日発売)

能《鉄輪(かなわ)》(金春流)ほか

## この人と...



演出家、劇作家、特定非営利活動法人 愛知人形劇センター理事長

きむら しげる  
木村 繁さん

探求心と自然体。  
その先に見据える「ヒトと人形」。

我が国を代表する人形劇団「むすび座」に、劇作・演出として長年に渡り作品提供してきた木村繁さん。また、愛知人形劇センターの顔として、ユニークな企画を次々打ち出し、人形劇の世界を刺激し続けると同時に、演劇界においても、日本演出者協会の理事として丸10年間、地域と中央を繋ぎ続けた木村さんは、ある意味「人間」と「人形」どちらにも精通した、稀有な存在である。自分を飾らない人懐っこさの奥に秘められた、芸術への熱意の源、その本質取材した。

(聞き手：はせ ひろいち)

まさにバンカラ色…飯山北高校時代



5歳、長野県飯山城跡で。先祖が槍の指南番だったと聞き、槍の名人を目指していた。

第二次世界大戦の終結から3年、まだ世の中に動揺と混乱が渦巻く1948年、長野県は飯山市に6人兄弟の四男として生まれた木村繁さん。「本当は上に兄と姉がいたのですが、幼少期に東京大空襲で亡くし、親はその身代りに、私と妹を作ったようです」と静かに話す木村さん。「悪戯ばかりやっていた」という腕白な少年期を過ごし、柔道とスキーに打ち込む。「なにせ長野県最北の豪雪地帯。僕もスキーは上手かった。もちろんモノが無い時代だから『スキーを折るなら足を折れ』が合言葉だったけど」と微笑みながら振り返る。実家から路地一つ離れた場所に、図書館を併設した公民館があり、青年団や合唱団などの催しも盛んだったが、木村少年は「演劇なんて女子がやるコト」と信じていたという。

そんな中、飯山北高校の時代には、木村さんの将来

を暗示するような出会いもあった。西部劇好きの男性英語教諭に見込まれ、授業の中で『シェーン』の台詞を読まされたり、ESSの英語劇で準主役をやらされたりした。また、芸大出のやはり男性音楽教師が「オペラを作ろう!」と呼びかけ、木村さんは「見たこともないオペラ」の創作台本や作詞を任された。「とにかくバンカラな時代。無茶苦茶だけども面白い教師が多かった。僕らも宿直室に押しかけたり、新潟から来てる学友の下宿に泊まったり、大いに語り大いに飲む、が普通だった」と目を細める木村さん。いろいろ押し付けられながらも、それに応える若き日の木村さんには既に「新しいモノ」への好奇心に、全力で立ち向かう素養があったのだろう。

時代の波、学生運動に翻弄された精神

ある意味「古き良き時代の青春」を、長野で謳歌した木村さんは、名古屋の大学に進学し、別の意味での時代の荒波に翻弄されることになる。この頃の話は、積極的には回顧したくない木村さんから不躰に、半ば強引に聞き出した。その分貴重な、歴史的証言と言えるかも知れない。



1960年代の後半と言えば、学生運動が最も過激にエスカレートし、どの大学もロックアウトが続いた時期。多くは語らない木村さんの「中退」の経歴が、何より時代を象徴している。「田舎から出てきた若造には、判らないことだらけだった。激化する運動の波の中で、集団の主張を強要され、仲間も分裂していく。友情も失くしたし、実際に命を落とした友もいた」と木村さん。時代のうねりに飲み込まれ、その真ただ中で疲弊していった。「そんな中、世の中が本当に変わるかな、とも思っていたんだよね」とつけ加える。気づけば言葉が上手く出せなくなっていた。「精神的な圧迫からきた軽い言語障害ですね。自分の名前にも含まれてる『カキクケコ』が発音できない。当時は駅に自販機もなく、駅員から切符を買う時代。電車に乗れなかった」と木村さん。持病の喘息も併発し、木村青年は、やがて大学を去ることになる。

しかし、そんな失意の中の木村さんに「入社試験を受けてみないか」と声がかかる。アルバイト感覚で手伝いをしてきた「前進座」の現場でのコトだった。

### 撮影所の風景と三味線の音色に救われ…



25歳で演出デビューした印象舞台『雲の涯』の演出中  
(作:田中千禾夫、東京阿佐ヶ谷アルスノーヴァ)

前進座は勢いがあって、御園座と中日劇場の間地点、広小路に事務所がありました。さらに映像部門だと『遠山の金さん』なんかもユニットで丸ごと引き受けてたから、付き人やったリプロンプやったりで、東京の歌舞伎座や京都の太秦にも足を運んでた。撮影の合間、誰かが三味線の稽古してたり、ちょっとした砂場で若手の役者がトンボ切ったりね。大道具の修業で使った釘をまっすぐに直したり、埃まみれの土蔵のようなスタジオがあったり…そんな光景や風景が、何とも楽しかった。気づけば言語

「ちゃんと学科試験もあって『シェイクスピアの作品を3つ書け』なんて問題だった。僕は『ロミオとジュリエット』しか思い出せなくて」と笑顔で振り返る木村さん。他の受験生は早稲田出身者がズラリ、という中で合格して社員となり「制作・宣伝」の名古屋配属となる。「当時、前

障害も喘息もすっかり治っていた」と木村さん。世間から遠く離れた別世界、現実から切り離された場所が、当時の木村さんには何よりの居心地だったのだろう。「まさに芝居に救われた、って感じてしたね」と振り返る。

そしてこの時期、木村さんは並行して前進座専属の大道具会社にも関わり、舞台美術にもものめり込んでいく。社長兼棟梁から丁寧な指導を受け、最初に手掛けたのが千田是也の『海戦』だった。「あれは築地小劇場の再現でしたね。思えば他に、紅テントの青山墓地の野外も3本位やってる。アングラとの接点ですね」と懐かしそうに振り返る。木村青年、23~4歳の頃である。

### 恵まれた出会いとスパルタな戯曲塾



戯曲論を叩き込んでくれた東宝戯曲科の主任、大笹吉雄氏と『黒の舟歌』を絶唱。

では、木村さんの肩書に欠かせない「劇作」と「演出」の二つの顔は、どのような経緯で生まれたのだろうか？

「どうにも資料とか残さない人間だから…」との前置きの後で伺った話だと、劇作の方が少し早いようである。前進座の制作部に所属しながら、書き上げた作品を戯曲コンクールに応募したら、それが最終選考まで残ったのだ。作品は、信濃毎日新聞の主筆として反軍ジャーナリズムを貫き、非難攻撃を受けクビとなるも、最後まで名古屋の地で戦い続けたジャーナリスト「桐生悠々」を描いた戯曲。200字原稿用紙で厚さ数センチにもなる大作だった。そして選考会の後、審査員でもあった劇作家、演出家の故 津上忠氏に、銀座の東急ホテルに呼び出される。「あの作品は、若かった自分としては『超スーパーリアリズム』なんていきがっていたんだけど、津上さんから励ましをもらって本当に嬉しかった」と木村さん。亡くなった今でも「戯曲の師匠」として尊敬し続ける存在だと言う。

劇作の修業としては、その後、帝国劇場の講座にも通った。言わずと知れた東宝の直営劇場だが、ある時期、地下三階で授業料なしの「戯曲科」が存在し、木村さんはそこに2年間通い詰めた。「校長が渡辺保氏で主任講師が大笹吉雄氏。今なお一線の劇評家2人が徹底的に厳しくて、その日の課題ができるまで帰らせてくれなかった」と木村さん。毎週、作品やレポートの持ち帰り課題も出され、月に2本、50枚は当たり前。書かなければ即刻ク

ビだった。「あの頃の経験がなかったら、絶対芝居なんか続けてない」と木村さんは断言するのだ。

### 弟子入りを願って秋浜氏の自宅にも

木村さんの初演出は25歳で、作品は故 田中千禾夫の代表作『雲の涯（はたて）』だったのだが、これまた日くがいろいろついてくる。「劇団三十人会」の芝居を観た木村氏は、その不条理性に共感し、入団しようと試みるが、ちょうど解散する時期となり叶わず、そのいわゆる残党集団「印象舞台」の中で初演出を果たすことになる。ちなみに解散した劇団三十人会は日本を代表する劇作家、故 秋浜悟史氏とふじたあさや氏が作・演出としてひっばっていた劇団だった。

「秋浜さんはいつも新宿で真っ黒な服で飲んでた。ふじたあさやさんを紹介してくれたのも秋浜さん。僕は本当に秋浜さんの弟子になりたいくて奈良のご自宅に押しかけたりもしてました」とは木村さんの弁。弟子は取らなかった秋浜氏だが、東京を離れた後も、上京の度に稽古場を訪れ、いろいろメソッドの指導をしてくれた。「正直、秋浜さんは『メソッドおたく』なトコロがあって、僕まで『野口体操』とかやらされて困ったけど」と笑う。こんな大先輩たちの支えもあって初演出の『雲の涯』は幕を開ける。「初日の舞台を田中千禾夫さんが奥様と一緒に観に来てくれた。それも最前列のど真ん中。監修のふじたさんも怖い目で見ている。あれは緊張したなあ。そんな時に限って主役の女優が衣裳を仕込み忘れてたりして。本当にひやひやした」と、まるで昨日のここのように、嬉しそうに話す木村さん。失礼は承知で本当に舞台が好きなヒトなんだなあ、と思う。

### テント劇団を立ち上げ北日本縦断

そして次作品では自身初の「作・演出」にも挑戦。『絵のない絵本』と名付けられた、子供の狂気を描き、今でいう「おのまとべ遊び」をモチーフにした斬新な作品だった。



桜前線逆行興行を決定したテント劇団の雄姿。  
(前列右が木村氏)

以降、木村さんはこの劇団で数作品を演出することになる。

かと思えばこの時期、自ら別のテント劇団を作り、仲間とトラックで巡業の1年を過ごしたりもした。「あれは多分、役者の

外波山文明さんと飲んでた席の口喧嘩がきっかけ。『俺だって野外ぐらいいける！』って宣言したんだよね」と木村さん。トラックとテントを購入し、初演の場所は青森の竜飛岬に決める。青函トンネル工事の人たちが面白がって客席は満杯だった。「『桜前線を遡る』と言って竜飛岬から弘前、仙台、郡山、富山、長野、東京…まるでサーカスの様だった」。移動の行程では、雨の中、仙台の公園のブランコにシート張って寝たりもしたし、喫茶店の主人が同情して泊めてくれた事もあった。木村さん自身も「火吹き男」をやっていた。もちろん先述の紅テントのバイト経験がアングラ的に生かされている。

### 名古屋への移住と人形との出会い

そして先述の東宝戯曲科の時期を経て、木村さん30歳の時、活動の拠点をいよいよ名古屋に移すことになる。そして人形劇との運命的な出会いも。「前進座の同期生から誘いがあって、名古屋に『鶴舞座』を立ち上げる事になった。もちろん軌道に乗るまでは、週末になると上京して舞台監督の仕事で資金作りもしてたけど」と木村さん。やがて演出家の故 丹下進氏から新作人形劇の台本を依頼され「人形劇団むすび座」に通うようになる。そこで書き下ろした『雪をんな』は、大人の鑑賞をターゲットにした、シンプルで美しい作品で、高い評価を受け全国を巡業する。人形には和紙を使い、何より三味線の生演奏とのコラボレーションが話題を呼んだ。弾き語りとは昨年他界された三味線やそすけ氏（後に、六柳庵やそこに改名）だった。「彼も東京からこちらに来た頃で、境遇や考え方の共感もあったけど、何せ東京には絶対いないタイプの名手。一気に惚れこみました」とは木村さん。



『雪をんな』三味線弾き語りの和紙人形。「これで人形劇にはまりました」と木村氏。  
(人形劇団むすび座)

そして1988年に名古屋で開かれた世界人形劇フェスティバル（飯田でも同時開催）が木村さんを人形劇の世界に釘付けにしていく。「とにかく海外作品の発想とクオ



リティーの高さに圧倒されました。人形劇の概念自体が変わった。影と光を操るジョコピータやフィリップ・ジャンティ。欧州の地続きの文化の凄みですね。演劇と人形劇がコラ



ベルリンの壁、崩壊直後のワルシャワの劇場で。芝居はあれど食うものがない

ボしてきた歴史が違うと実感した」と木村さん。現在に至る「木村流の芝居スタイル」に決定的な指針を与えた数年間だった。「昔から古典も好きで人形浄瑠璃などをよく観てたけど、この頃から会話劇から語りの劇へ、いわゆる文楽とか歌舞伎の手法や長い装飾のある文章への関心が少しずつ増えてきた気がするんだよね」と語る。

### 混ざりあうコトの本質的な楽しさ

その後の精力的な活躍に関しては、残念ながら文字数の制限もあり、詳細は別の機会に譲るが、人形作家・福永朝子氏との共作や、我が国初で話題を呼んだ人形劇学校「パペットアーク」（香川県、2013年に惜しまれつつ閉校）で3年間校長を務めるなど、精力的に活動してきた木村さん。「演出者協会の仕事も、組織的なコトへの関心ではなく、他者とゴチャ混ぜなことがしたかった」と語る。実際、榎木館でのまちなな演劇祭や中津川市での演劇キャンプでは、企画・運営はもちろんのこと自身の作品提供にも手を緩めなかった。



利賀村へ呼ばれ「夢十夜」「裸海」の演出、学習院の女子大生と至福の時間。



『SANAGI』あいちトリエンナーレPR隊の演出（横浜赤レンガ倉庫）



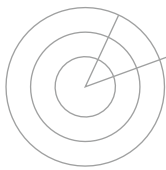
『水の宿』平山素子、下総源太郎、有賀誠門  
（パティオ池鯉鮒、銀座博品館劇場）

近年の活動だけでも、世界演劇祭「利賀フェスティバル」への連続参加や、2008年に知立市と銀座博品館劇場で公演された芝居と舞踊と生演奏のコラボ『水の宿』、井上ひさし作品を人形劇でロングランした『父と暮せば』（2012年～人形劇団むすび座）、2014年にオブジェクトパフォーマンスシアターとして

夢野久作の『ドグラ・マグラ』中の論文を原案に舞台化した『胎児の夢』など、木村繁流のコラボ美学が貫かれた、記憶に残る作品が続く。今年から来年にかけてはシェイクスピアの『ペリクリーズ』、『出雲のお国』、三島由紀夫作品などもあるとか。「長い間『やってやるもんか』と意地を張ってたシェイクスピア作品も3年前にクリアしたからね」と笑う木村さん。

一つ作品が終われば、古い商店街や電気街を巡り、主に機械系の骨董品を「大人買い」して部屋に引きこもるのが唯一の趣味だという。カメラや望遠鏡、製図の道具など、時には分解して組み立てる至福の時。そんな木村さんに今後の仕事観を訪ねたら「僕にしかできない『人間と人形の関係を見つめる仕事』が残っている気がする。これだけは見極めたい」との言葉が返ってきた。その人懐っこい瞳と笑顔の奥には、芝居でも趣味でも、関心あるモノにはとことんのめり込む、飽くなき探求心が輝いていた。

# ピックアップ



## 創刊60周年を迎える「あじくりげ」

「あじくりげ」という小さな冊子を知っていますか。手もとにあるのは2016年3月号でNO.691。今年5月号で創刊60周年を迎えるとあるので、創刊号は1956（昭和31）年の発行になります。昭和31年といえば、7月に発表された経済白書で「もはや戦後ではない」と宣言された年。12月には国際連合にも加盟しています。敗戦後11年を経て、日本が国際社会に復帰し、高度経済成長の幕開けとなった時期です。

そんな時代から続いていた「あじくりげ」の創刊号をのぞいてみました。

名古屋タイムズ主筆の松村静雄氏が「した三寸（序にかえて）」を次のように力強く締めていました。

「郷土の味を、郷土人として、愛し、賞し、そして、ここに『うまいものあり』と東西に披露して、ほんとうに味わってもらおうその手引き草に、この『あじ・くりげ』が役立つことを念頭として、次々と刊行されていくのを待ちたい。発刊のことばにかえて一言。」

近年、名古屋の食を、といってもB級グルメとやらですが、全国へ広めようという動きは大きくなっています。もちろん、他の地方でもそれぞれの土地の名物をつくりだして広めることはさかんに行われています。しかし、今から60年も前に、東海のうまいものを東西に披露しようとする志が高らかに宣言されていたことに驚きます。そして、郷土を愛する深い気持ちに目を覚まされた思いです。

創刊号には愛知県幡豆郡出身の文士 尾崎士郎（当時58歳）の「酒の味」、そして三重県名張市出身の探偵小説家 江戸川乱歩（当時61歳）の「海・草・美・味」が掲載され、それぞれの随筆が独特の香りを放っています。表紙絵も、創刊号は杉本健吉、第2号は宮田重雄、第3号は三岸節子と地元の大家が続きます。東海のうまいものを、一流の書き手と描き手によって東西に広げたいという強い気持ちが伝わってきます。

写真ページでは毎号、郷土名物や名品が紹介されています。たとえば、きしめん、あゆ、月見だんご、しぐれ蛤、五平餅、守口漬、かんてん、しいたけ、石垣いちごなど。しいたけやかんてんをつくっていたとは、東海のうまいものは今よりずっと幅が広がったようです。

この食についての小冊子を支えているのは「東海志にせの会」。創刊号には食に関する16社が名を連ねています。

60年を経て、食文化は変わりました。手間をかけないで美味しいものを食べることがもてはやされます。活字文化も変わりました。美味しいものを探すには、インターネットが大活躍です。こうした変化に、「あじくりげ」も翻弄されてきたにちがひありません。それでも、この小さな冊子を手にとったときに感じるぬくもりは、これからの私たちにとって、よりいっそう大切なものになっていくのだと思えてなりません。

「あじくりげ」は2016年5月号が最終号となります。しかし、バックナンバーは、名古屋市鶴舞中央図書館で読むことができます。(Y)



◀ 創刊号から  
1956年8月号まで



◀ 2015年12月号から  
2016年3月号まで



# いとしの サブカル

## アナログレコードの 人気の復活について

オタイオーディオ代表取締役

### 井上 揚介

レコード、DJ 機材店 OTAIRECORD, 高級オーディオ OTAIAUDIO、トラックメイクの大会 BEATGRANDPRIX の責任者。

世界で最も歴史のあるDJ大会DMC JAPANスーパーバイザーも務める。

2015年秋。スコットランドにて。

私はTANNOYというスピーカーブランドの本社見学に招待された。ほぼ毎日曇天で、肌寒かったグラスゴーへ向かうバスの中、ある方が私に対してぼろっと漏らした。

「音楽ソフトウェアの質という意味では、年々どんどん退化している気がします。」

当初、私は真意がとらえきれず、その時はスコットランドの曇り空の様な、どっちつかずの返事をした。バスの中ガラス越しに呑気に列を作って歩いている羊の群れを見ながら、私はその真意を得ることにシリアスに考え込んでしまった。

現在の音楽シーンにおいてレコード盤が復権している。

CDやmp3に代表されるデジタルファイルがありながらもレコード盤は利便性と引き換えに姿を消したと思われたが、今再びブームとなっている。ハイレゾ音源と言ってCDの規格よりも圧倒的にデータ量が多いファイルも人気ではあるが、音の波形の連続性という意味ではレコード盤の方が確かに優位性がある。

確かにそうだ、音楽ソフトウェアの質という意味では、利便性と引き換えにどんどん簡易的な方向をたどってきているのかもしれない。

なぜレコード盤が復権してきているのだろうか？

発明の父エジソンがレコードの元となるフォノグラフを発明した。日本語では蝋管(ろうかん)再生機という。フォノグラフでは音源の再生時間に限界があり、それにとって代わったのが蓄音機(グラモフォン)である。再生フォーマットはSP盤といわれるもので、レコードの原型である。酸化アルミニウムや硫酸バリウムなどの微粉末をシェラック(カイガラムシの分泌する樹脂状の物質)で固めた混合物を主原料として作られている。非常にもろくて、すぐに割れてしまう。

その後レコード盤が登場し、そして皆様ご存知、CDが本

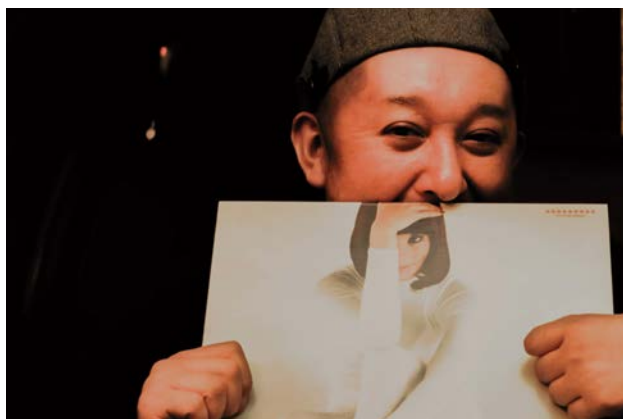
格的に出現したのが80年代前半の事。CDになって音楽はよりコンパクトになり、持ち運びも相当楽になった。

また、2000年あたりから本格的に音楽配信もスタートし、現在は楽曲をダウンロードして物質でなくデータとして持ち運べるようになった。実際、何千、何万の曲を簡単に持ち運べるようになった。

しかし、今も昔も変わらないのは1日24時間しかないこと。また、簡単に手に入るようになったものは、粗末に扱われるようになる。そこで、音楽の利便性でなく質を求めるコアな音楽ファンは気づいたのかもしれない。

「何かおかしい。本当に豊かなことってなんなのだろう?」

そういったコアな音楽ファンに対して、今再び愛聴されているのがレコード盤という訳である。CDや音楽ファイルに比べ、ジャケットが大きく所有したり聴く行為の充実感も高い。再生するのに手間がかかるが、その分の思い入れも強い。過去に無駄とされてきた事象が、今再び価値を帯びている。アナログ盤の復権について思う事は、「利便性を追求してきた我々にとって、本当に豊かな時間とは何か」ということが、大きなテーマになっているのではないかという事である。





Information

# NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2016

## 名古屋の街をジャズの音色で彩る2日間♪

中高生から社会人バンドまで幅広いステージを展開し、多くの市民の皆さんにジャズを楽しんでいただきます。

オアシス21会場では、中高生ビッグバンドによる元気いっぱい華やかな演奏から、社会人ビッグバンドによる渋い演奏まで、夏の恒例となったジャズのステージをお届けします!

ナディアパークアトリウム会場では、大人の雰囲気を感じられる地元の実力派ミュージシャンによる演奏で、ジャズの魅力満載のステージをお届けします!

観覧自由ですので、気軽に楽しんでいただくことのできる音楽イベントです。



※昨年度の様子

<b>日程</b>	2016年7月30日(土)～31日(日)	<b>会場</b>	オアシス21銀河の広場 ナディアパークアトリウム ほか
<b>時間(予定)</b>	13:00～20:00(オアシス21銀河の広場会場) 15:00～19:00(ナディアパークアトリウム会場)	<b>主催</b>	公益財団法人名古屋市文化振興事業団

Information

## 人形浄瑠璃

# 文楽

人形浄瑠璃「文楽」は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。太夫の語り、三味線の音、3人遣いの人形で複雑なドラマを表現します。

解説では、文楽のあらすじを出演者がわかりやすくお話しし、みどころをお伝えします。

今回の公演も、電光表示パネルを舞台下手脇花道に設置し、初めて鑑賞する方でもお楽しみいただけるように字幕を表示します。

【写真:青木信二】

### 昼の部

いも せ やま おんな ていきん  
妹背山婦女庭訓

すぎ ざかや だん みち ゆき こいのおだまき ひめもど きんでん  
杉酒屋の段、道行恋亭環、姫戻りの段、金殿の段

### 夜の部

ちか ころ か わ ら た て ひ き  
近頃河原の達引

し じ ょ う が せ ん け ん じ ゃ ん け ん じ ゃ ん  
四条河原の段、堀川猿廻しの段

<b>日程</b>	2016年10月7日(金) 【昼の部・夜の部 2回公演】	<b>会場</b>	名古屋市芸術創造センター
<b>時間</b>	【昼の部】14:00 【夜の部】18:30	<b>料金</b>	1階 4,700円 2階 2,600円



## 頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー      アートディレクター      印刷コンサルタント

**株式会社 駒田印刷株式会社** TEL(052)331-8881  
〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

WE MAKE YOU MOVE 感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。



舞台音響 / 映像設備  
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する  
**株式会社 エーアンドブイ**  
〒464-0846 愛知県名古屋市中区城木町二丁目98  
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

## 舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。  
ハイビジョンで撮影し  
ブルーレイディスクでお渡しします。



ビデオソフトの企画制作

有限 株式会社 エーワン・ビデオ・システム  
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

# ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。  
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・パレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

**MP MANAGEMENT PRO 株式会社 マネージメント・プロ**

〒464-0850 愛知県名古屋市中区千種区今池1-14-11 CASA LUZ302  
TEL (052) 735-3151 FAX (052) 735-3152 E-mail: mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

- 業務内容**
- ①舞台の企画・制作マネージメント
  - ②イベントの企画制作
  - ③芸術団体のコンサルティング
  - ④舞台・イベントの運営